

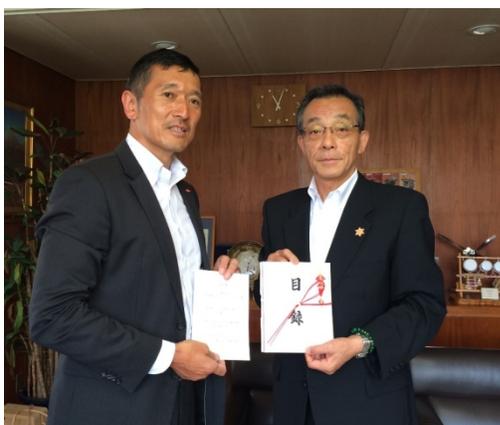


Press Release

2014年8月5日

ダウ化工広報室

ダウ化工、今年も鹿沼市へ太陽光発電型 LED 外灯および図書を寄贈



東部台コミュニティーセンター／寄贈式の写真（左：杉山隆博、右：佐藤 信市長）

ダウ化工株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：杉山 隆博）は、2005 年より開始し、10 年目を迎える栃木県鹿沼市への寄贈プログラムを今年も実施しました。2014 年 8 月 4 日、ダウ化工社長の杉山 隆博および鹿沼工場長の山田 道男が鹿沼市役所を訪問し、佐藤 信市長に寄贈目録を手渡しました。

2005 年よりダウ化工は、鹿沼市役所を通じてダウの地域貢献を目指した寄贈プログラムを開始しました。同プログラムでは、太陽光発電型 LED 外灯および科学・化学関連図書の寄贈を実施しています。ダウ化工による鹿沼市への寄贈は、地域の環境保護・安全強化および次世代による科学・化学への関心向上を目的としています。

2014 年寄贈内容：

- 太陽光発電型 LED 外灯 6 基、総額 400 万円相当
寄贈先：西保育園（1 基）、板荷保育園（1 基）、鹿沼運動公園（1 基）、東部台コミュニティーセンター（1 基）、自然の森総合公園（2 基）
- 科学・化学関連図書（238 冊）、総額 50 万円相当
寄贈先：鹿沼市立図書館

ダウ化工は、米国の石油化学品メーカー、ダウ・ケミカルの子会社です。ダウ化工は、1972年より鹿沼市で「スタイロフォーム™」住宅・ビル用断熱材の生産に従事しています。ダウ・ケミカルは、生産活動に従事する世界各地でさまざまな地域貢献活動を行っています。これらの活動は、「ダウ 2015年持続性目標」の基本方針のひとつである‘地域社会繁栄への貢献’を実践したものです。日本での活動は、自社工場所在地である地元地域の安全、環境保護および若い世代の科学への関心を高めることを目的に寄贈プログラムを続けています。

ダウ化工鹿沼工場長の山田 道男は、「2005年から始まった寄贈プログラムを途切れることなく継続し、今年で10年目を迎えられたことを光栄に思います。今後も微力ながら、息の長い地域貢献に努めていくとともに、鹿沼市での安定的な生産活動を通じて、地元経済発展に向けて専念してまいります」と述べています。

®™ ザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標

ダウ化工広報室 沢登（電話：03 5460 6276 メール：rsawanobori@dow.com）

★ 写真をご希望の方は沢登までご連絡ください。

ダウは、科学技術の力を用いて、人々の進歩に本当に必要なことにイノベーションを起こします。化学、物理、生物学の力を結集し、清潔な水、クリーンエネルギーや省エネ、農業の生産性向上など、世界が直面する課題の解決に取り組んでいます。化学産業を代表する、ダウの統合化された機能性化学品、先端材料、農業科学品およびプラスチック事業は、成長著しい包装材料、エレクトロニクス、水、コーティングや農業などの分野において、約180カ国で製品やソリューションを提供しています。2013年の年間売り上げは570億ドル以上、従業員数は約5万3千人です。世界36カ国201カ所の生産拠点で、6千を上回る製品の生産に従事しています。米国ミシガン州に本社を置くダウは、1973年に東京証券取引所に上場した最初の外国企業です。www.dow.com